

啓明

啓明通信



学校教育目標

- 将来に希望をもち、豊かな知性を磨く生徒
- 自分に厳しく、他を思いやる生徒
- ねばり強く、心身をたくましく鍛える生徒

平成31年度実践目標

「独立自往」の精神のもと、啓明スタンダードを備えた、
「啓明生」としての品格のある生徒を育成する。



お互いに高め合う「集団」づくりを目指して

2学年主任 鈴木 健夫

「プルタブレース」、「いじめに対する標語の募集」、「教室内の装飾」、「みんなを褒めようキャンペーン」、「合格みくじ」……。これらは、今回の「生活充実週間」で、各常任委員会や学年協議会の生徒たちが、自身で発案し、実行している取組の一例です。

これらに共通していることは、そこに生徒同士の「交流」があるということです。自分たちの学級・学年・学校を、みんなで協力しながら、積極的に「より良く」していこうとする、「啓明生としての姿勢」が明確に見られた取組でした。

中国の思想家・儒学者である「荀子」の有名な言葉に、『蓬生麻中、不扶自直』（蓬も麻中に生ずれば、たすけずして自ずから直し）というものがあります。ねじれたり曲がったりして伸びていく性質のあるヨモギが、まっすぐに伸びていく麻の中で育つと、何も手を加えなくても、麻と一緒に頑張って真っ直ぐに伸びていくという言葉です。それが転じて、「人は、良い環境に置かれれば、自ずと成長していくものだ」という意味をもちます。

前述の「生活充実週間」の取組は、まさに、この言葉に当てはまると思います。「集団としての成長」の中で、「個」もまた成長していきます。啓明祭や合唱の会などの大きな行事が成功に終わった今だからこそ、その成果を生かすべく、生徒同士がお互いに高め合い、さらに成長していけるような場面がたくさん見られることを期待します。

校内には、生徒会や各委員による、趣向を凝らした掲示物や装飾が多数ありますので、来校された際は、ぜひご覧ください。

後期生活充実週間について

11月25日(月)～29日(金)は後期生活充実週間でした。日常の取組を見直し、さらに学校生活のレベルアップを図ることを目的として、「いじめに対する標語募集」「プルタブレース」(生徒会役員会)、「ベル席等点検」(生活常任委員会)、「一人三冊キャンペーン」(図書常任委員会)、「あいさつ運動」(各学年協議会)など各委員会で様々な活動を企画、実施してきました。お昼のPR放送などを通じて活動の説明があったり、意欲的に活動したりするなど、熱心な取組が印象的でした。



総合的な学習の時間 (KT: ^{けいめい タイム} Keimei Time)

総合的な学習の時間（本校ではKTと呼びます）において、今まで学習をしてきたことのまとめとして、1年生は「職業人へのインタビュー」、2年生は「職場体験学習」、3年生は「上級学校訪問」、9組は「職場体験・事業所見学」を行いました。

どの学年も、地域や保護者の皆様、さらには札幌市内全域のさまざまな職場、学校などの全面的な御協力があってはじめて成り立つものです。お忙しい中を、本校の教育活動のために献身的に御協力いただき、深く感謝申し上げます。学校の中だけでは決して学べない生きた学習をさせていただくことができ、将来への展望が開けるとともに、大きな成長につながっているものと感じています。



【職業人へのインタビュー（1年生）】



【職場体験学習（2年生）】



【上級学校訪問（3年生）】



【職場体験・事業所見学（9組）】

演劇部が二年連続の全国大会へ

11月23、24日に札幌市教育文化会館で行われた第14回北海道中学生演劇発表大会において、2年連続の最優秀賞に輝きました。来年8月に北九州市で開催される全国大会に進出します。

演目「Is アイズ」は、家族や友人との関係に悩みながらも、なかなか本音を言えない主人公が、心の中の複数の自分と対話しながら成長していく物語です。部員達は生き生きと表現していました。



給食試食会が行われました

11月15日給食試食会が行われ、約60名の方が参加されました。

メニューはポテトグラタン、あさりのカリッとサラダ、黒コッペパン、リンゴでした。

佐藤加奈子栄養士から、給食の歴史や作る様子などの説明がありました。



長縄跳びトーナメント開催中

11月5日から、厚生常任委員会主催の異学年交流、長縄跳びトーナメントが実施されています。学年問わず、童心に帰って楽しんでいます。1年生が3年生に勝利するなど、番狂わせもありますが、体力づくりの一環としての期待がもてる取組です。

